

玉垂



御田植祭（平成19年6月3日）

<http://www.okunijinja.jp/>

夏に向かつて

当社にとって初夏の風物詩とは花菖蒲です。本年も五月中旬より順調に開花し、休日ともなると多くの参拝者にお楽しみ戴いております。時期の花だけに毎年綺麗に咲かせるためにはその後の植え替えが大切です。株分けの時期は六月下旬から約二週間が適しており、雨中でもジリジリとした暑い日射しの中でも作業をいたします。この植え替え作業の丁寧さが、来年の開花状況の良し悪しを決めるのです。

さて、六月三日の宮代神饌田「御田植祭」は、関係各位のご理解ご協力を戴き、恙なく斎行できましたことに厚く御礼申し上げます。例年「御田植祭」は斎行しておりますが、特に本年は森町教育委員会のご指導のもと、「田遊び神事」が国の選択指定されたことを記念し「民俗芸能・民俗行事公開大会」として開催致しましたところ、森町立旭が丘中学校関係者及び生徒のお田植えには特別なお取り計らいを戴きました。公開大会では、延宝八（一六八〇）年四月六日に記された「遠州一宮記録」をもとに特殊な神饌を復元し紹介しました。また、田遊び神事を三段演じるとともに、水口での呪文奉読を再現いたしました。更に旭が丘中学校の生徒達には衣装を着け、田圃に入り田植えをしました。白丁を着けた五月男四人と白衣・緋袴姿の五月女八人が、田植え歌の調べに合わせて、早苗を上に掲げたり左右に振る所作をしながら、真剣にご奉仕をして戴きました。この時は宛ら何処かにタイムスリップしたような心持ちでありました。折角様々な方々のご協力のもとに実施できたのですから、末永くこの伝統文化を継承していきたいと存じます。

昨年五月に着手いたしました記念事業「社務所の増改築工事」は一年間順調に進捗し、屋根の部分が出来上がり、現在は内部の工作行程に進んでいます。ご参拝の方には何かとご不便をおかけしますが、引き続き温かいお力添えをお願いいたします。

今年は梅雨の期間が短いという予報ですが、神饌田の早苗の成長には恵みの雨が必要です。これからの暑い夏を呉々もご自愛の上、お過ごし下さいますようお願い申し上げます。

例祭の齋行

四月十四日より十八日に亘り、例祭及び神賑行事等が盛大裡に挙行されました。

本年は、森町のご出身で書家の杭迫柏樹氏を勅使役としてお招きし、ご奉仕を賜りました。杭迫氏は、日展評議員・日本書芸院副理事長をお務めになるなど広く活躍されており、多数の著書をご出版されております。去る三月十七日には当社へご参拝の折り、書一幅のご奉納を戴いております。

さて、十四日は献詠祭・氏子入り奉告祭を齋行し、国指定重要無形民俗文化財である十二段の古式舞楽が舞殿にて奉奏されました。十五日は神幸祭が齋行され、神輿渡御が行われました。



勅使役 杭迫柏樹氏 (4月15日)

お旅所では、祝詞の奏上に続き森町指定無形民俗文化財の巫女舞が奉奏されました。勅使行列も宮代公民館より神社に向けて出発し一の鳥居付近で合流し還幸となりました。勅使役を務められました杭迫氏は「ご奉仕を無事終えられた」ととても良い経験をさせて戴きました」と心境を語られました。古式舞楽は十五日も十二段の演目を無事奉納いたしました。また恒例行事であります新茶の手揉み実演・弓道愛好会による大弓会・参道には露店が軒を列ねるなど境内は賑わいました。



神幸祭の巫女舞 (4月15日)



舞楽行列 (4月14日)



書家 杭迫柏樹氏 書一幅「随神」ご奉納 (3月17日)



稚児行列奉仕者一同 (4月14日)

宮代神饌田「御田植祭」の斎行

六月三日（日）午前九時三十分より、氏子内・宮代地区の大場昭三氏が所有管理いたします神饌田におきまして「御田植祭」を斎行いたしました。

本年は、もとより静岡県指定無形民俗文化財であります当社の「田遊び神事」が年明けに国選択の無形民俗文化財に選ばれたことをうけ、森町の伝統文化保存伝承、また後継者育成のために小國神社田遊び保存会及び小國神社御田植祭伝承会主催により、森町教育委員会のご指導・ご協力のもと「第一回民俗芸能・民俗行事公開大会」として開催されました。



田遊び神事 一種蒔き一

これに伴い、祭典における神饌は古い記録にありますが特殊な神饌をお供えし、五月男（さおとこ）・五月女（さおとめ）の衣裳を社家並びに敬神婦人会にご奉納いただくなど、より本来の形態での斎行・開催となりました。

祭典後の公開内容は、社家の方々の奉仕により「田遊び」三演目を披露し、引き続き旭が丘中学校生徒が五月男（四名）・五月女（八名）として田植え唄の曲に合わせお田植えをいたしました。



お田植え奉仕の森町立旭が丘中学校の生徒（3年生）

その後、奉仕者以外の生徒たちが演奏するお囃子に合わせ、敬神婦人会の皆様が田植えをいたしました。

こども祭の斎行（五月五日）



当社の命名児60名がご参列



菖蒲とよもぎを授与

一宮さくらまつりの開催

四月一日（日）、初夏を思わせる陽気の中、一宮さくらまつりが開催されました。宮川沿いの染井吉野をはじめ川津桜・滝桜が見頃を迎え、門前駐車場の特設舞台では関係の各種団体による歌や演奏が披露されました。特に「友銭会」による銭太鼓は総勢一〇〇名で駐車場いっぱいになり、リズムカルに踊る姿は観客を魅了していました。また、参集殿付近には野点が設けられ、舞殿で奏でられる琴・尺八の美しい音色を聴きながらのお茶席は格別でした。夜間は、門前周辺の桜をライトアップして楽しんでいただきました。



銭太鼓の奉納（4月1日）

花菖蒲まつりの開催

五月二十四日に当社門前にある花菖蒲園が開園しました。例年より少し早く咲きはじめ、早生・中咲きの花菖蒲がそよ風に揺られ風情を感じさせてくれます。

六月二日には、「花菖蒲観賞祭」が斎行され開園を祝いました。翌日の三日には「花菖蒲まつり」が開催され、野点が二席、琴・尺八の演奏、山野草の展示即売が行われました。

また、この季節は「遠州花めぐりツアー」の観光客も多く、お茶を楽しみむ方や山野草をご覧になる方で賑わいました。



花菖蒲の開花

社務所増改築工事の現況



社務所北側部分（6月12日）



社務所南側・応接室付近



御鎮座千四百五拾年記念事業

御奉賛者御芳名（五）
（順不同・敬称略平成十七年一月一日〜平成十九年五月三十日迄）

※記載額は奉賛金の総額となります

（一宮・橘地区）

参 萬 圓以上

中村 典雄

（園田地区）

伍拾萬圓以上

伊部 司郎

（諸団体及び崇敬者）

壹百萬圓以上

岡野建設(株)

岡野 良隆

参 萬 圓以上

三組町甲子講

長谷川建具店

長谷川恵一

伍拾萬圓以上

伊藤 晃

高林 秋芳

杉本 義彦

川崎 博史

廣瀬 兼久

平岡 久明

三浦 宗和

美松工業(株)

徳丸 信男

村松 雪雄

鈴木 藤男

稲垣 まき

(株)稲垣金型製作所

橋本 士郎

戸館 亮人

参 萬 圓以上

山本 榮

渥美 健次

山本 清二

仲川 明

宮本 直司

林 猪佐夫

小野田 操

村松 才治

壹 萬 圓以上

長野 律子

金原 光春

鈴木 俊光

杉本 純一

匿名

匿名

(宗)法華山王清浄講社

松崎 尚也

杭迫 柏樹

参拾萬圓以上

寺尾 純子

貳拾萬圓以上

壹拾萬圓以上

長野 律子

金原 光春

鈴木 俊光

杉本 純一

匿名

匿名

まつり歳時記

七月〜十一月

七月

文月ふみづき

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十九日 甲子祭 (午前九時)
- 三十一日 境内地譲渡記念祭 (午前八時)
- 三十二日 愛宕神社例祭 (午前九時)

八月

葉月はづき

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)

九月

長月ながつき

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十三日 秋季皇霊祭遙拝式 (午前九時)
- 二十五日 御柱祭 (午前九時)
- 二十五日 敬老祭安心祭 (午前十時半)
- 二十七日 甲子祭 (午前九時)

十月

神無月かんなづき

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)

十一月

霜月しもつき

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 三日 明治祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 七日 山神社例祭 (午前十時)
- 十五日 七五三祝祭 (午前九時)
- 十八日 月次祭・稲祭 (午前九時)
- 十九日 疫神齋 (午後二時)
- 二十一日 地鎮祭 (午前九時)
- 二十三日 新嘗祭 (午前十時)
- 二十四日 奉納農産物品評会 (午前十時)
- 二十四日 紅葉祭・山芋賞味会 (午前十一時)
- 二十五日 もみじまつり (午前十時)
- 二十六日 甲子祭 (午前九時)



カラー

第六回「写真コンテスト」のご案内

昨年、第五回を迎えた「秋の写真コンテスト」には例年と変わらず多数のご応募がありました。多種多様に表現された作品には、改めて当社境内の自然の豊かさを感じました。

本年の写真コンテストは応募者の希望もあり、撮影対象期間を延ばすこととなりました。期間は秋から翌年の春までをテーマとして、明年五月二十日を締め切りといたします。対象期間が少し長くなりますが、季節ごとに彩る草花や祭事等をより多くの方に知って戴きたいと思っております。多くの皆様のご応募をお待ちしております。

詳しくは、写真コンテスト実行委員会にお問い合わせ下さい。



宮川の朝

古代の森シリーズ 20

「古代菓子(こだいかし)」

古代菓子は、当社の例祭・神幸祭だけに大神様にお供えされる特殊神饌であり、「フト(伏兔)」「マガリ(曲勾)」と呼ばれます。

祭典前日に神職・巫女によって調製されていますが、フトは餃子状のもので、マガリは紐状の輪をひねった形のもので、作り方は、まず米粉に水を加えながら練り、ある程度の固さになったらとろろで、蒸籠に入れて一時間程蒸します。その後、もう一度よく練り冷めないうちにフトとマガリの形にします。かつては、少量の砂糖を加えたり、フトには小豆の餡を入れたと云われています。また、以前は御田植祭にもお供えされていたと伝えられています。



左・曲勾(マガリ) 右・伏兔(フト)

茅の輪神事

「夏越の大祓」のご案内

六月三十日（土）午後三時より夏越の大祓式が斎行されます。

大祓とは、日常生活の中で無意識のうちに、心や体について罪やけがれ、災厄や不浄なものを身代わりとなる人形（形代）に移し、清らかな姿に立ち返るようお願い、川に流して祓い清める神事のことを行います。この神事は、年に二回（十二月と六月の晦日）行われており、特に夏越の大祓では、梅雨の時期に多い流行病や疫病にかかることなく、暑い夏を健康で過ごせますようにと茅の輪くぐりが行われます。



夏越の大祓式「茅の輪神事」

くぐり方は、茅の輪の手前で「蘇民将来」と三回唱え、左右左と（8の字を書くように）三回くぐります。当日ご参列いただければ神職とともにお願いをお受けいただけますので、是非ともご家族の皆様お揃いでお申し込みの上、ご参列いただきますようお願い申し上げます。

尚、大祓の人形は一ヶ月前より、御祈祷をお受けいただきました方々に、または社頭にてお頒けいたしております。ご希望の方は当社までお問い合わせ下さい。皆様と一緒にお願いをして、暑い夏を乗り切りましょう。

小國神社社務所 大祓係
TEL 〇五三八一八九七三〇二
FAX 〇五三八一八九七三六七

命 名

平成十九年二月一日〜平成十九年五月三十一日

- | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|-----|-----|-----|-----|
| 山下 | 相澤 | 小池 | 渡邊 | 寺田 | 松浦 | 新村 | 小林 | 渡邊 | 芝田 | 安間 | 小嶋 | 本多 |
| 詩織 | 信吾 | 俣大 | 櫻子 | 梨瑛 | 早織 | 司穂 | 實那 | 優那 | 千華 | 史玖 | 花歩 | 祐太 |
| 磐田市 | 袋井市 | 袋井市 | 浜松市 | 掛川市 | 磐田市 | 菊川市 | 東京都 | 森町 | 東京都 | 浜松市 | 掛川市 | 袋井市 |
| 天野 | 白畑 | 大石 | 須藤 | 朝比奈 | 大橋 | 田口 | 斉藤 | 高塚 | 伊藤 | 渡辺 | 神谷 | 八木 |
| 陽由 | 佑奈 | 知希 | 雅斗 | 悠月 | 志歩 | 弘誠 | 桜士 | 隆貴 | 心温 | 暢希 | 悠良 | 稜太 |
| 森町 | 掛川市 | 浜松市 | 掛川市 | 浜松市 | 浜松市 | 浜松市 | 御前崎市 | 御前崎市 | 浜松市 | 静岡市 | 磐田市 | 磐田市 |

- | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 赤堀 | 青島 | 村松 | 松山 | 許智 | 鈴木 | 島田 | 野久 | 加藤 | 山本 | 大庭 | 杉田 | 藤田 | 海野 | 岡本 |
| 里 | 梨帆 | 和奏 | 悠人 | 智紀 | 悠里 | 侑芽 | 保斗 | 悠斗 | 莉央 | 奨 | 雄飛 | 理那 | 友吾 | 心太朗 |
| 御前崎市 | 磐田市 | 袋井市 | 袋井市 | 袋井市 | 磐田市 | 浜松市 | 磐田市 | 磐田市 | 磐松市 | 磐松市 | 袋井市 | 袋井市 | 袋井市 | 浜松市 |
- 当社では、お子様の命名を申し受けております。

新職員抱負



出仕 江元 智彦

この度、皇學館大学神道学専攻科を卒業し、小國神社出仕を拝命いたしました。まだご迷惑ばかりかけておりますが、まだ戸惑いは多々あり、その都度皆様より温かいご教示を賜りながら充実した日々を過ごしております。

入社後間もなく、小國神社の一四五〇年の伝統文化がうかがえる十二段舞臺を拝見したときには、歴史の重み、神々しさを感じました。長い年月、継承し後世に伝えていくことは大変難しいことであると思いをいたしました。未だ勉強の毎日ではありますが、一杯ご奉仕させていただきますので、どうか今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



巫女 村松 美沙

伝統ある小國神社に奉職することができて、心より感謝しております。初めて経験することばかりで、日々先輩より指導を受けております。

少しですが早くお役に立てるよう精一杯努力いたしますので、どうぞ宜しくお願いいたします。



巫女 別所由輝子

社会人としてまだまだ未熟で頼りなく、先輩や周りの方々に迷惑や心配をかけることが多々あると思います。

少しでも早く仕事を覚えるよう努力いたしますので、今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。



俳優・堀田眞三氏ご参拝（真中）（4月1日）



有村治子参議院議員ご参拝（4月20日）

「小國の杜・点描」



拝殿前のカヤラン（4月25日）



森町文化会館にて第54回静岡県敬神婦人連合会大会の開催（4月20日）



勧学祭参列の新1年生（4月7日）

平成十九年六月十八日
 「玉垂」（たまだれ）第二十号
 題字揮毫 神社本廳前総長 工藤 伊豆
 発行 小國神社社務所
 郵便番号 四三七〇二二六
 住所 静岡県周智郡森町一宮三九五六一
 電話番号 〇五三八（八九）七三〇二
 FAX 〇五三八（八九）七三六七
 印刷 (株)デザインオフィス エム・エス・シー

平成十九年六月三日（日）午前十時三十分、宮代神饌の「御田植祭」を撮影いたしました。のどかな田園風景の中、地元の森町立旭が丘中学校の生徒十二名が、五月男・五月女となり豊作を祈願して田植えを行いました。

表紙写真について

○「玉垂」二十号をお届けいたします。四月から六月迄の祭事行事をご報告させて頂きました。お田植えを森町立旭が丘中学校生徒が一生懸命に務めた姿は感動的でした。また、全ての日程が済んだ後、田圃の脇で男子生徒がお弁当を食べていた光景は、とてもほのぼののしていました。○モリアオガエルの卵塊（卵のかたまり）が、今年も宮奥の小池の周りがある紅葉の枝先に何個も見つけられました。自然の生命力とはすごいものですが、是非無事に生長してもらいたいです。

編集後記



社務所前の枝垂桜（4月10日）